

研究課題	保育者の着装意識に関する基礎的研究		
氏名	平野麻衣子	所属	総合教育科学系教育学講座
		職名	准教授
APRIN e-ラーニングプログラムの受講		<input checked="" type="checkbox"/> ←受講済の場合はチェックをすること	
<p>【研究成果の概要】 （文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）</p> <p>本研究は、保育者の着装意識を職業観、職務内容（保育・教育内容を含む）、園の物的環境、協働性、地域社会との連携との関連から捉え、着装意識と着装実態を明らかにすることを目的とした。これまで、「服装」を「保育職」の構成一要素と位置づけた研究は行われていないため、保育職の魅力を新しく社会に発信するための手がかりや課題の発掘となるよう基礎的知見を集約、発信することとした。主な研究成果は下記の通りである。</p> <p>1 保育者の被服行動からみる就業実態 「服装」からとらえる保育職の新たな魅力と課題の発掘を行うことを目的とし、保育者へのインタビュー調査及び対象園での実地調査を行った。インタビューデータのうち「被服選択行動」と「購買行動」にあたる項目を分析対象として、保育者の被服行動の実態を明らかにした。その実態から、保育者を取り巻く労働環境・条件と保育労働実態を検討した。その結果、保育者の被服選択行動は、天気や活動に影響を受けること、時間的、精神的な余裕があまりない状況の中での選択であること、子どもを優先するために様々な展開や状況を想像しながら服装においても備えることが習慣化していること、子どもに寄り添い、共感的に関わることが常に求められる職業であることから服装によって感情を調整しようとする保育者もいることが明らかになった。また、保育の服の購買行動は、明確な目的や意識、計画性をもった購買行動ではなく、生活の中でタイミングや隙間時間を見つけながら、効率的に購入する傾向があり、その背景には、長時間にわたる勤務が保育者の生活時間を占有している実態があること、季節や天気、気温の変化に影響を受けやすいこと、衣服を消耗しやすい職務内容であること、購入価格という要素も無視できないことが明らかになった。このように、保育者の服装を労働やくらしと関連づけて検討することにより、他の職種にはない保育職の特徴を捉えることができた。インタビューから得られた保育者の語りには“あらためて意識すると考えて選択していることがわかった”というものもあり、インタビュー調査を通して、被服行動に対する保育者自身の意識が芽生える様子があったが、日常のいとなみであるが故に意識されにくい側面も明らかになった。</p> <p>2 保育者の服に込められた意味と多様な価値観 インタビュー調査と実地調査をもとに、ビジュアルリスティックに整理した報告書を作成した。「保育者の纏い」として衣服に込められたその人、その場所、その時間の意味を写真とともに可視化し、服を通して見える保育観、保育者観、衣服観、身体観、労働観、ジェンダー観などの奥深い対話が生まれるように作成した。ビジュアルリスティックなデザインにより、保育職の魅力を視覚的に訴え、保育者自身も自分たちが社会に発信するイメージの提供者であることを認識するきっかけになると考える。</p>			
<p>【研究成果発表方法】</p> <p>2021年度東京立正短期大学紀要50号『保育者の被服行動からみる就業実態』2022年3月25日 保育者の着装意識に関する研究報告書『HOI-CLOTHES』2022年3月26日 日本保育学会学会誌『保育学研究』への投稿予定 報告書をもとに実践者や保育養成課程の学生との対話の場（HOI-CLOTHES meeting）開催予定</p>			

※発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。